

花崗岩質土壌（マサ土）での草地造成

マサ土は、沿岸地帯から内陸の遠野市、千厩町から江刺市、東和町にかけて広く分布している。近年の草地造成は改良山成工法により行われ、マサ土が露出し牧草の定着・生育不良等の問題が出ている。マサ土では、草地造成時に堆肥施用することで牧草の定着が向上し、利用段階では緩効性肥料の利用や堆肥併用が収量確保に効果的である。

表1 マサ土の化学性

pH	交換性塩基 (mg/100g)			磷酸吸収 係数	有効磷酸 (mg/100g)
	CaO	MgO	K ₂ O		
H ₂ O					
6.57	42.5	15.0	8.5	94	0

マサ土のpHは中性に近く、磷酸吸収係数が著しく低い。

マサ土では、草地造成時に完熟堆肥等の有機質資材を施用することにより、牧草の定着率が高まる。

表2 造成時資材の施用量(kg/10a)と牧草被度(%)

項目	無石 灰区	炭力 ル区	粗碎 石灰	硫力 ル区	熔磷 倍量	堆肥 区
石灰資材	0	200	200	200	200	200
熔 磷	50	50	50	50	100	50
完熟堆肥	0	0	0	0	0	3000
牧草被度	46.7	46.0	42.7	39.8	37.2	74.5

表3 追肥とオ - チャ - ドグラスの収量(kg/10a)

項目	生草収量	乾物収量	同左指数
標準施肥区	3,667	707	100
窒素倍量区	6,568	1,130	160
磷酸倍量区	4,039	778	110
緩効性肥料	5,941	924	131
堆肥併用区	5,706	1,085	153

マサ土は、保肥力が弱いので、緩効性肥料の利用や堆肥の併用が収量を高めるのに効果がある。

また、窒素肥料の増施も効果がある。